



会長	齋藤 宙也	国際会長 (IP) Edward Ong (シンガポール)	監事	松島 美一
副会長	古田 和彦	「Faith, Love, Action」 「信念、愛、行動」	ブリテン	秋元 美晴
書記	古賀 健一郎	アジア太平洋地域会長 (AP) 田上 正 (熊本むさし)	担当主事	菅原 歩
会計	大高 治	「Act now with faith and love!」		
直前会長	古田 和彦	「信念と愛を持って行動しよう!」		
		東日本区理事 (RD) 山下 真 (十勝)		
		「ワイズらしさの再発見」		
		「Rediscovering Y's Uniqueness」		
		かながわ部長 (DG) 兵藤 芳朗 (鎌倉)		
		「共に歩み 交流を深め 部の「絆」を強めよう」		
		横浜クラブ会長 (CP) 齋藤 宙也		
		「信念と愛をもって行動しよう!」		

<今月の聖句>

古田 和彦

主であり、師であるわたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合わなければならない。わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、模範を示したのである。

(ヨハネによる福音書 13:14-15 節)

今月のひとこと

一生を終えて残るもの

横浜つづきクラブ 鈴木 茂



この度は、伝統ある横浜クラブ・ブリテンの「今月のひとこと」に寄稿させていただく機会が与えられ、感謝申し上げます。私は、昨2025年5月に88歳・米寿を迎えた高齢者であります。この年齢まで生きながらえることができたことは、本当に感謝すべきことであると、最近になってしきりに思うようになりました。そんな折に、思いがけず私の息子、娘と孫たちから、私ども夫婦のために米寿のお祝い会を開きたいと提案があり、先般、近くのレストランで祝の宴を設けてくれました。ひ孫も含め12人が集まりました。妻も私も、大いに感激したひと時でありました。また米寿に当り、孫たちが昔

の写真を集めてアルバムを作り、プレゼントしてくれたことも、うれしい驚きでありました。

米寿の集いやアルバムなどのプレゼントをもらって改めて気づかされたことは、自分自身は娘・息子・孫たちや周りの人たちに何かプレゼントするものはあるのか、という問いでありました。米寿の集いの「お返し」程度はしたもの、88歳までも生かされてきたのであれば、もっと意義のあるプレゼントをするべきではないか、との思いが強まりました。それは米寿まで生かされた者として、生きた証を感謝の思いを込めて残す責任があるのではないかと、いう衝動でもありました。

そんな折に出会ったのが、三浦綾子の「一生を終えてのちに残るのは、われわれが集めたものではなく、われわれが与えたものである」と言う言葉であります。確かに、私たちが集めたものは、財産であれ、知識であれ、ほとんどは時の経過とともに消え失せるものであります。これに対して、わたしたちが周りの人たちに与えるものは、ものにせよ愛情や好意にせよ、与えられたという事実が受け手側にいつまでも残るように思われます。

「ワイズの信条」には、「隣人を愛そう」、「YMCAにつくそう」、「国際親善をはかろう」、「義務をはたしてこそ」など、与える＝奉仕することの大切さが強調されています。「ワイズの信条」を心に刻み、ワイズメンとして忠実に生きることが、お世話になった自分の家族や周りの人たちへ残すべき証であり、責任でもあるのではないかと考えています。

<2026年2月例会実績>

在籍者	出席者	出席率	B F	
10名	メン 6名 メネット 0名 コメット 0名 ビジター 0名 ゲスト 0名 合計 6名	70% (メキップ1名を含む) 前月修正 出席率 %	今月分 切手 0g 現金 0円 年度累計 切手 0g 現金 0円	

<3月の行事>

CS・GreenP・ワイズメネット・Community Service

日	曜	時間	行事内容	場所
3	火	19:00-20:30	第113回 Y-Ys 協議会	中央Y
6	金	14:00-16:00	YMCA キャンプソングの集い	中央Y
12	木	18:30-20:00	第一例会	中央Y
14・15	土日	13:00	次期会長・部役員研修会	東山荘
25	水	11:30	第二例会	Zoom

横浜 YMCA 会員大会—ピースフォーラム—兼第一例会報告

古賀 健一郎

2月11日(水・祝) 10:00~12:30、横浜 YMCA 会員大会—ピースフォーラム—が、湘南とつか YMCA およびオンライン (Zoom) で開催された。維持会員・YMCA 職員を含め、約166名が参加した。

横浜クラブ：秋元、古賀、齋藤、佐竹、田口、古田

【2月11日に会員大会—ピースフォーラム—を実施する意味】

横浜 YMCA 総主事 佐竹博

2月11日「建国記念の日」は、かつて「紀元節」として定められ、初代神武天皇が橿原の宮で即位したことを日本のほじまりとする日とされている。しかし、その歴史的背景や戦前・戦中の国家神道との関わりから、軍国主義体制の形成に寄与し、侵略戦争の精神的基盤となった側面も指摘されている。このため横浜 YMCA では、2月11日を単に「建国を祝う日」とするのではなく、「平和を求める日」として位置づけ、毎年ピースフォーラム(会員大会)を開催している。

YMCA の理念である「すべての人の尊厳を大切にし、公正で平和な社会を築く」という考えに基づき、戦争や暴力の歴史を振り返り、平和の実現に向けた対話と行動の機会とすることを目的としている。また「会員大会」という名称のもと、維持会員相互の親睦・交流・学びの場としての役割を果たすとともに、YMCA の活動やボランティア活動を広く知らせる機会にもなっている。

【オープニング 開会礼拝】

午前10時、開会。司会を務めた会員事業委員会委員の千葉裕子さんが、テサロニケの信徒への手紙Ⅱ章17節を朗読し、その後、会員事業委員会委員長の古賀健一郎ワイズが祈

りを捧げた。続いて、横浜 YMCA 理事長・工藤誠一氏が開会の挨拶を行い、「YMCA の理解を深め、学びと交流を通して、平和な社会を築くために私たちができることを共に考えていきましょう」と語られた。

【特別講演】『戦後80年 原爆被災者が語る平和とは』

講師 青木清子氏

青木清子氏は、4歳のとき広島で原爆を体験した。自宅は爆心地から離れていたため家族は助かったが、市内から避難してくる多くの負傷者の姿に接し、幼いながらも原爆の惨状を目の当たりにした。その後、親とともに市内に入り被爆し、親族の中には行方不明者や、後に原爆の影響で亡くなった人もいた。

講演では、原爆の熱線や爆風、放射線による甚大な被害、そして多くの命が失われた事実が語られた。また、白血病で亡くなった佐々木禎子さんのエピソードにも触れ、原爆の悲劇が子どもたちにも深い影響を与えたことが紹介された。

戦後、青木氏は美術教師として教育に携わり、その後 YMCA の活動や国際理解講座、外国人支援活動などを通して平和と共生の大切さを伝えてきた。日本被団協がノーベル平和賞を受賞した際にはオスロを訪問し、市民に折り鶴を配るなど平和への思いを共有した。

青木氏は、核兵器は人類を滅亡させかねないものであり、核抑止に依存する考え方では平和は守れないと訴える。広島・長崎の悲劇を二度と繰り返さないため、国際理解と対話を積み重ね、核兵器廃絶と平和な世界を築く努力を続けることが私たちの責任であると強く語られた。

【カテリーナさんのメッセージ】

「私はウクライナ出身のカテリーナです。現在、日本で避難民支援に携わりながら、YMCA の保育園やアフタースクールでウクライナの現状や平和について伝える活動をしています。

2025年夏、広島市主催の国際理解センターに参加しました。広島については本や写真で知っていましたが、実際に訪れると受け止め方はまったく違いました。被爆の歴史に触れ、平和とは何かを改めて深く考える機会となりました。

平和を実現するためには、現実を直視し、衝突の根本原因に向き合う勇気が必要です。

私たちが平和について語るのは、安心して学校に通いたいと願う子どもたち、家族の安全を願う人々、故郷を離れざるを得なかった人々のためです。

ウクライナと広島は歴史も状況も異なりますが、そこには共通する痛みと教訓があります。過去を忘れず、同じ悲劇を繰り返さない努力を続ける責任が、私たちにはあります。

対話と出会いは、平和を『当たり前』に近づける力があると信じています。このような機会をいただいたことに心から感謝します。」

【ピースフォーラムの講演を聴いて(参加者の声)】

・ピースフォーラムとしての意義が明確に伝わるプログラムであった。青木氏や子どもたち、カテリーナ氏の言葉を通して、自分にとっての平和とは何か、また自分にできることは

何かを改めて考える機会となった。今後も当事者の体験に耳を傾ける場として参加したい。

・当時4歳という幼少期の記憶であっても鮮明に残る体験の重みを感じた。自分の世代が経験した震災などを思い起こしながら、それ以上の惨禍が戦争という人災によって引き起こされた事実を深く受け止めた。このような出来事を二度と繰り返さないために、平和を守る声を上げ続ける必要性を強く感じた。

・被爆者ご本人から直接お話を伺う機会は非常に貴重であり、戦争の悲惨さ、核兵器の恐ろしさ、平和の尊さを改めて考える時間となった。「ノーモア長崎」の思いを胸に国内外で平和を訴えてこられた歩みには大きな意義を感じた。平和は国や文化を越えて共有すべき課題であり、一人ひとりの行動が社会に影響を与え得ることを実感した。過去を風化させることなく、次世代へ語り継ぐ重要性を再確認する機会となった。

【青木氏よりメッセージ】

「参加者の皆様のご感想をお聞きし、お話した甲斐を改めて感じています。これからも子どもたちへの語り部活動を続けてまいります。

国内外に戦争の足音が絶えない現状を、市民一人ひとりの平和への祈りと行動によって変えていきましょう。」

【結び】

このフォーラムを通して、平和は遠い理想ではなく、私たち一人ひとりの選択と行動の積み重ねの中に築かれていくものだと改めて感じました。

これからも対話と学びを重ねながら、平和への歩みを続けてまいります。YMCAがその架け橋となり続けることを願い、本報告の結びといたします。



近況

—海外生活よもやまばなし2—

大高 治



現役時代私の周りには海外で仕事をしたいというスタッフが大勢居ました。希望する時期に希望の国や地域に行けた人ばかりではありませんでしたが、皆さんそれぞれ希望を持って、海外に赴き、価値ある自分史を作ったことと思います。海外での仕事が増えると一端外国に出ると、日本に戻っても

僅かな期間日本に居て、また海外に出るようになりました。また海外拠点から別の海外拠点に赴任するようにもなりました。私はそうした人達に海外で働く際の注意事項や励ましのキャッチコピーの幾つかまとめて渡しました。それは自分や他人の成功失敗例から導き出したものです。2025年9月号のブリテンの「海外よもやま話」では、「成金たれ」、「日本人に似てますね」は誉め言葉ではない』を紹介しました。今回はその続きを現代版にしてお届け致します。

【地球は益々大きくなる】

「交通通信の発達により地球は益々小さくなる」と言う言葉は人口に膾炙しています。しかし1990年代の半ばを過ぎると内外の電子工業のお客様の海外展開が活発になり、私の出張回数も増え、また仲間たちも今まで行ったことのない国や土地に行くようになりました。妻は「地球は小さくなっているのではなく、大きくなっている」と言う。空路も新しいルートが増え、便数も増えました。一方、通信手段はテレックスからファックスに、更にE-mail、国際電話と多様化し便利になりました。1960年代市外電話を掛けるのに上司の許可を必要とした会社がそここにありました。雲泥の差です。日本の工場で作る物、世界に輸出出来たら、最も効率的ですが、外貨不足で資材輸入が困難な国、産業を興して雇用を増やそうとする国、またお客様は資材を輸入するより、目の前に在庫が積み上がっている生産材の購入を好みました。私たちが出張して行かなければならない所、我々が行くことを待っている国や地域が増えたのです。将に「地球は益々大きくなって来た」のです。

この傾向、業種により多少の差はあるでしょう。また円高回避策から海外に進出した会社もありました。昨今の円安は1990年代の円高下でビジネスをした経験からは想像し難い世界です。円安になっても、海外生産を縮小ないし撤退して、日本に戻ってくるのは簡単ではありません。現状の為替のレベルがしばしば維持されていることが必要です。円安は日本からの輸出に有利に働きますから、増産分は日本からという会社も出て来るでしょう。日本の生産が増え、雇用が増えてGDPも押し上げてくれることになるでしょう。

一方、力を付けた会社は、M&Aによって半導体などの研究部門を買い取り、独自の力で欧米に研究開発部門を設立しています。こうしたところでは、為替の変動でこれら事業から撤退したり、日本に移すことは出来ません。むしろ現地に定着して、現地のプレーンを活用する真の国際化が進んで行くように思います。地球はやっぱり大きくなって行くのです。

【一生日本語で暮らせたなら幸せだ】

国際都市New Yorkには戦火などから逃れた東欧諸国からの移民が大勢おりました。1960年代になると、彼らの二世三世も活躍する場になりました。彼らの中には4~5カ国語も話せる人が居て、自慢げに話してくれるのでした。多言語に精通し驚嘆させられる少数派は別にして、多言語は本当に自慢に値するのだろうか。生き延びるための方策ではなかったのではなかろうか。一方、アメリカの中西部には英語のみの人が少なくありません。総じてアメリカ人は他国の言葉に興味が無いようです。資本主義社会では買い手より売り手が何事にも積極的でなければ、競争に負けてしまいます。言語も競争の内です。

日本では中学高校大学と英語を習って来ましたが、英語を話せる人は多くはありません。それでも多くの日本人は幸せに暮らしています。一方、日本の経済、文化の国際化が進む中で、英会話が出来るとそれだけ仕事での幅が広がり、交流の度が深まることも真実です。更に第二言語として、アジアの国々の言葉を片言からでも話せるようになると、交流の中は更に増して行きます。

1970年、韓国に長期の出張した折、英語、ドイツ語が出来、日本語の流暢な方に出会いました。私より3~4歳年上だと思います。日本の統治下での日本語教育の結果ではありません。日本時代の後、どこかで本格的に習得したに違いありません。思わず、「素晴らしいですね」と言ったら、「いいえ、外国語など習わずに済んだら、これほど幸せな事はありません」と言うのです。ショックでした。だから今も覚えています。この方は好んで外国語を習得したのではないことが分かりました。韓国にもこのような方がいたのです。両班の抵抗に合いながら、日本の総督府は朝鮮全土に義務教育を導入して、ハングルと日本語の普及を図ったことを喜ばない民もいたのです。

日本は好むと好まざるに関わらず、国際交流を必要としています。その一翼を担おうとすれば、益々大きくなる地球の中で、「一生日本語で暮らせたら幸せだ」とは言っておれないのです。高校の卒業式でPTA会長の訓辞がありました。その後水戸市の市長になり、ブリテンで触れたことのある木村伝兵衛さんです。「日本は資源がない国だと嘆くなかれ。人が居るではないか。君たちが居るではないか。四方海に囲まれているではないか」70年間脳裏に隠れていた訓辞が突然現れました。

第二例会報告

大高 治

日時 ; 2026年2月25日(土)11:00~11:50

出席者 ; 秋元、大高、古賀、斎藤、菅原、古田

場所 ; ZOOM

古田副会長のお祈りに続いて開始。

1、行事予定の確認

2月25日(水)から6月6日までの確認

3月6日(金)の追加(詳細は2にて説明)

2、協議・報告事項

(1) 例会計画

- ・3月12日(木)第一例会の卓話; 平和の語り部(長崎華僑の被爆) 明治学院大学教授、篠崎美生子教授の予定。卓話謝礼は故あって受取れない。かながわ部にも参加(ZOOM可)を呼びかけるので教授のプロフィールを添えたい。
- ・4月9日(木)第一例会の卓話; 佐竹総主事から「美しい港町横濱を作る会」のしかるべき方に依頼中。同会の会長や事務局長と言った方をお願いすることになる。
- また3月3日のY-Y協議会でアピールの予定。
- ・5月15-16(金・土)かながわ部富士山例会(当会の第一例会); 種々検討、交渉中。

- ・6月11日(木)総会準備
- (2)W4W(Week4Wast)の対応
長田館長が詳細検討しているが、当会は「美しい港町横濱を作る会」の清掃活動への参加とする。今年は4月11日(土)。集合場所、時間は追って確認する。
- (3)第29回東日本区大会; 6/5(金)~7(日)各人で申し込む。
- (4)ブリテン3月号編集計画; 問題無し
- (5)その他
 - ・諸献金支払い報告; 下期分区費を含め、事務局長と交信して納入済。
 - ・齋藤会長より、部の評議会で地域活動について問合せがあった。
 - ① W4W、②絵本の会、③外国籍の子供たち支援を報告することにする。
 - ・3月6日「キャンプソングの集い」はユースの有意義は交わりの場。横浜YMCA9Fのチャペルで開催する。14~16時、会費500円。
 - ・故伊藤ワイズの件; ①3月5日(木)14:45 追浜駅集合して伊藤さん宅訪問。その他: ①会費の返納、②部・区への退会届け、③ワイズ内への訃報の連絡、④ブリテンへの追悼文の用意。



担当主事 菅原 歩

三寒四温の言葉どおり、寒さとあたたかさが交互に訪れる季節となりました。

冷たい風に身をすくめる日もあれば、やわらかな日差しに春の訪れを感じる日もあり、少しずつ季節が進んでいることを実感します。

近所の公園や庭には梅の花が咲いているところもあり、横須賀では河津桜が早咲きの木は葉桜になりつつあるそうです。季節の移り変わりを子どもたちと感じながら、一日一日を丁寧に歩いてまいります。

2月

11日 会員大会-ピースフォーラム-

14日 かながわの朝鮮学校交流ツアー2026

16日~26日 南北 코리아 とかながわのともだち展

25日 ピンクシャツデー

28日~3月1日 YLET(横浜 YMCA リーダー評価研修会)

3月例会プログラム

日時：3月12日(木) 18:30~20:00

場所：中央YMCA・オンライン

司会 齋藤ワイズ

1. 開会点鐘および挨拶・・・・・・・・齋藤会長
 2. ワイズソング・ワイズの信条・・・・・・・・全員
 3. 今月の聖句・・・・・・・・古田ワイズ
 4. ゲスト・ビジター紹介・・・・・・・・齋藤会長
 5. 卓話・・・「おわらない被爆 一長崎の町と人」
篠崎美生子氏 (明治学院大学教授)
 6. ビジネス・報告・・・・・・・・齋藤会長
 7. Happy Birthday 秋元美晴、古賀智子、
佐竹順子、古田和彦
 8. 閉会点鐘・・・・・・・・齋藤会長
- 例会報告：齋藤ワイズ

4月の行事予定

日	曜	時間	行事内容	場所
9	木	18:30-20:00	第一例会	中央Y
11	土	9:00-10:30	美しい港町横濱を作る会 清掃活動	関内地区
22	木	11:30	第二例会	Zoom

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA 菅原歩にご連絡下さい。

メール sugahara_ayumu@yokohamaymca.org

電話 045-307-7556